事 業 報 告 書	
事業名: なかよろずアップ企画	無理しない当事者活動とその支援
報告日:9 月 3 日	
開催日時:令和 7 年 8 月24日(日) 10時～15時	対象者:表現活動を用いた支援に関心のある人
参加費:各回500円	主催:STAND Still
参加者:第1部 8 名 第2部 6 名	開催場所:なか区民活動センター研修室 1

講座の様子

第1部では大藪順子氏が米国での取材を通じて、多くの性暴力サバイバーというレッテルや偏見に向き合ったこと、そしてビジュアル情報を活用していかに内面の思いを見える化し、エンパワーメントや自己肯定感につなげていくかについて語られました。言葉にしにくい感情を写真というツールを通して表現することの重要性が示されました。STAND Still は、2019年に大藪氏によるプロジェクト「STAND Still 性暴力サバイバービジュアルボイス」に参加したメンバーが設立した団体です。その団体代表者にも活動をしていく中で、気を付けていることを伺いました。少人数の小さな群れで活動していることによって安全を作っている事や、セラピーではなくアートの活動、個人的な相談は乗らない、性暴力サバイバーにピリオドを打ち、それだけではない活動をしていくなど、活動の工夫をされていました。

第2部のワークショップ開始時は、参加者の皆さんは少し緊張している様子でしたが、与えられたテーマに沿って同じ手法を体験する中で、徐々に場の雰囲気は和み、皆さん楽しそうに取り組んでいました。写真を通して、自身の内面を表現する新たな方法を学ぶ貴重な機会となりました。参加者の方は「言葉ではなく写真というアートを通してビジュアルを通して伝わってくるものがあった」「写真の魔力に気づかされ支援に活かせることもあると思った」「自分と同じようなことを考えている人がいたんだと純粋に思った」などお言葉をいただき、テーマに沿った実践的なワークショップが効果的に組み合わさり、大変有意義な時間となりました。

ワークショップで行った写真を展示

フォトジャーナリスト 大藪氏

2部 STAND Still と同じ法論でワークショップ体験